



近代東西洋天観の衝突と相克化（相克化）

Clash of East-West Views of Heaven

目次

1

2 天観の基本概念: 地水火風vs陰陽五行

3 マテオ・リッチと東西天観の比較

補儒論と天観の衝突

5 太極の理(理)問題

6 天観の相克化と現代的意味

7 東学思想の造化的対応

8 結論および
議論

🔗🔗 東西天観の相互関係と現代的意味を探究する

問題提起および概要



東洋天観

陰陽五行(陰陽五行)

衝突



西洋天観

地水火風(地水火風)

- ① 近代期、東西洋の世界観(天観)が歴史的に初めて本格的に遭遇し衝突
- ② 東洋の陰陽五行: 相関的自然観、変化と循環の原理を重視
- ③ 西洋の地水火風: 人格神に基づく自然観、実体と属性の区分
- ④ 二つの天観の衝突は東アジア伝統思想と社会体系に根本的変化をもたらす
→ どのような衝突は単なる文化交流ではなく文明パラダイムの衝突として展開

天觀の基本概念 地水火風 vs 陰陽五行



地水火風(地水火風)

西洋の四元素論

- 1 地(地)、水(水)、火(火)、風(風)の四つの基本要素
- 2 実体(substance)としての自然観－独立的存在として認識
- 3 アリストテレスの自然哲学に起源、中世まで継承
- 4 人格神によって創造された世界の基本構成要素



陰陽五行(陰陽五行)

東洋の相関的自然観

- 1 음양의 상보적 관계와 금(金), 목(木), 수(水), 화(火), 토(土)의 오행
- 2 相関性(相関性)に基づく自然観－関係と変化の重視
- 3 循環的(相生)関係と抑制的(相剋)関係の均衡
- 4 理法(理法)としての自然法則、内在的世界観

類似点と相違点

類似点

- 자연의 기본 구성요소를 설명하려는 시도
- 물질세계와 정신세계를 연결하는 매개 역할

相違点

- 서양: 실체 중심 vs 동양: 관계 중심
- 서양: 독립적 존재 vs 동양: 상호의존적 존재
- 서양: 인격신 중심 vs 동양: 이법(理法) 중심

マテオ・リッチと東西洋天観の比較



マテオ・リッチ(Matteo Ricci, 1552-1610)

イタリア出身のイエズス会宣教師で中国名「利瑪竇(利瑪竇)」
天主教を東アジアに伝播し東西洋思想の架け橋の役割著書:『
天主実義(天主實義)』-西洋天観を東洋に紹介

「性理学以前の儒教經典である『書経書経』に現れた東洋の天観が西洋の天観と類似しており、むしろ優れた点があることに感嘆する。」

- マテオ・リッ
チ

古代儒教天観

人格的上帝(上帝)観念人間
と疎通する超越的存在

変化

性理学的天観

理法的(理法的)天理(天理)観念
非人格的自然原理としての天

- ① リッチは儒教經典『書経』において西洋の人格神概念と類似する要素を発見し歓迎した
- ② 人格神(西洋・初期儒教)と理法神(性理学)の間の根本的差異と論争を触発
- ③ 『天主実義』を通じて西欧天観を紹介し、東アジア知識層に新鮮な衝撃を提供

補儒論と天觀の衝突

補儒論(補儒論)

西洋天主教が儒教を
補完するという理
論

— 一時的協力 ▶

深刻な衝突

根本的世界觀の差異
による葛藤の深化

補儒論の展開

- マテオ・リッチの戦略
儒教本来の思想が天主教と通じるという主張
- 朝鮮兩班層の反応
儒教本来の趣旨を活かす点で一部受容
- 衝突発生
表面的類似性を越えた根本的世界觀の差異を発見

核心的衝突点

- 1 人間觀の差異
西洋:個体的・独立的人間
東洋:關係的・相關的人間
- 2 地觀(地觀)の差異
西洋:地球を客体的対象として東
洋:地を天(天)と相關的關係とし
て
- 3 文明的危機の深化
近代化過程における伝統哲学の存立の危機

太極の理(理)問題と天觀の相克化



西洋実体論 Substantialism

理(理)を実体(substance)と見る観点

- 独立的存在としての神(God)
- 外在的創造主
- 人間と自然の分離



対立



東洋理気論 Li-Qi Philosophy

理(理)を原理(principle)と見る観点

- 万物の内在的原理
- 気(氣)との不可分性
- 天人合一(天人合一)思想

天觀の相克化(相克化)現象

- ① 存在論的対立太極の理(理)が自立的存在であるかの論争は東西洋哲学の根本的衝突点
- ② 神觀(神觀)の葛藤人格神と理法神の間の対立、靈魂不滅説を巡る論争
- ③ 人間觀の変化神尊人卑(神尊人卑)と人尊神卑(人尊神卑)関係の錯乱
- ④ 社会的結果東洋では陰陽五行と天地神明が否定され、西洋では無神論的世界觀が形成

「相剋は相剋を生み、天地と人間は惨憺と錯乱し尽滅の境地へと轉換されるのが今日の現実である。」

東学思想の造化と結論



- ① 東学思想の造化的アプローチ 韓国の東学は侍天主(侍天主)を通じて
陰陽五行の自然哲学と地水火風の人格神概念との間の調和を試みる
- ② リミナリティ(境界性)の思想的価値
東西洋の極端な対立を超え、異なる世界観の間の「中間地帯」を開拓
- ③ 自生的近代性の模索
西欧化や伝統固守を超えた新たな哲学的思惟の可能性の提示

現代的示唆点



東西思想の対話的出会い



相克化を超えた相生の可能性



現代の地球的危機と世界観の回復